

【学力向上フロンティアスクール中間報告】

都道府県名	香川県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	三木町立三木中学校					
学 年	1 年	2 年	3 年	特殊学級	計	教員数
学級数	8	8	8	2	26	50
生徒数	288	283	311	10	892	

研究の概要

1. 研究主題

生きる力をはぐくむ教育課程の創造

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<p>1, 2, 3 学年必修教科, 選択教科, 総合的な学習の時間（以下「総合学習」と呼ぶ）</p> <p>少人数授業と選択教科の研究成果や生徒に対する実態調査の結果を踏まえながら, 実施学年・教科の枠を広げて, 研究に取り組む。</p>
--

(2) 年次ごとの計画

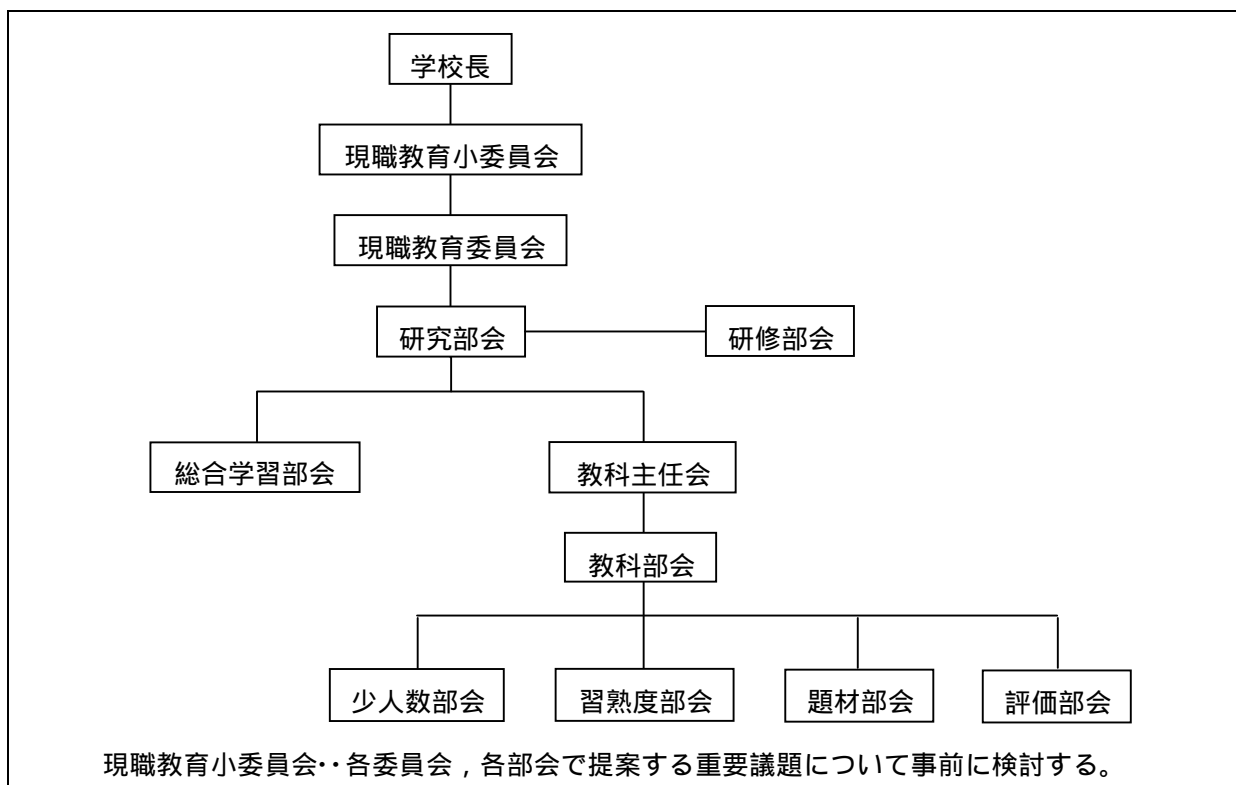
平成 14 年 度	<p>テーマ</p> <p>基礎・基本を重視した教科・選択教科と主体性を促す評価方法をとおして 研究の見通し（仮説）</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本3教科（数学, 理科, 英語）において少人数授業を, 選択教科において習熟度別授業や興味・関心に沿った題材別指導を行うことによって, 個に応じた指導がきめ細かく行え, 基礎学力の向上に役立つのではないかと。 評価の方法や評価を生かした指導を工夫することにより, 生徒は評価の過程で習熟度の確認や学習の振り返りを行い, 学力の向上や定着を図っていけるのではないかと。 <p>研究の内容・方法</p> <p>基礎学力の向上を図るために, 次の2点について工夫する。</p> <p>基礎学力を育てる授業を, 多様な指導体制や指導方法を用いて行うこと</p> <p>基礎学力を育てる評価のあり方を検討する。</p>
--------------------	---

平成 15 年 度	<p>テーマ</p> <p>確かな学力を育てる総合学習のあり方</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>「学びの評価（生徒のPDS）」を生かし, 各教科との関連を明確にした, 総合学習の創造によって, 学力の向上が図れないかと。</p>
--------------------	---

平成15年度	<p>研究の内容・方法</p> <p>「学びの評価」を生かし、各教科との関連を明確にした、総合学習の創造</p> <p>ア 生徒の自己評価力の育成と「学びの評価」を生かした指導</p> <p>イ 各教科との関連を明確にした年間計画とその実践</p> <p>教科・選択教科における少人数授業や習熟度別授業の充実</p> <p>教科における評価を生かした指導</p> <p>ア 授業アンケート・学習アンケートの実施と分析</p> <p>イ 授業改善のための指導計画</p>
--------	--

平成16年度	<p>テーマ</p> <p>思考力・表現力を高めることを重視した授業改善をととして</p> <p>研究の見通し（仮説）</p> <p>授業アンケート（生徒による授業評価）・学習アンケート（生徒の自己評価）から本校の学力の課題として見えてきた「思考力・表現力を高めること」に的を絞って全校で取り組んでいけば、学力の向上につながるのではないか。</p> <p>研究の内容・方法</p> <p>授業改善アンケート・学習アンケートの評価を生かし、ポイントを高める指導の推進</p> <p>教科・選択教科における少人数授業や習熟度別授業の充実</p> <p>総合学習における生徒の自己評価力の育成と「学びの評価」を生かした指導の充実</p>
--------	---

(3) 研究推進体制



現職教育委員会・・・校内の研究部会・研修部会のすべての議題を集約する。
 教科主任会・・・・・・・各教科の情報交換と、教科間で統一する議題について検討する。
 教科部会・・・・・・・教科主任からの伝達を受けて教科研究を推進する。

- 少人数部会...必修教科における少人数授業の授業形態と指導方法の研究
 評価を生かした指導の方法の研究
- 習熟度部会...選択教科における習熟度別指導の授業形態と指導方法の研究
 評価を生かした指導の方法の研究
- 題材部会.....選択教科における題材別指導の授業形態と指導方法の研究
 評価を生かした指導の方法の研究
- 評価部会.....評価に関する研究の推進
 総合学習部会・・・・・・・確かな学力を育てる総合学習の検討と実践

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

(1) 「学びの評価」を生かし、各教科との関連を明確にした、総合学習の創造

生徒の自己評価力の育成と「学びの評価」を生かした指導

ア 総合学習で育てたい学力とその評価規準の作成

「学びの評価」は、課題の立て方、学び方、ものの考え方、課題を解決するための手順など、体験学習に向かうプロセス、まとめ及び発表のなかで適切に行い、「学び」と「評価」を一体化させることが大切である。そこで、本校の総合学習の目標である問題解決的な学力を下の表の8点からおさえ、「育てたい学力」をつけていくためには、どのような指導・支援をしていけばよいかという研究を行い、今までの本校の体験を重視した総合学習を問題解決的な総合学習のなかへ位置づけることができた。

育てたい学力(目標)	評価規準
学習活動への関心・意欲・態度	自分自身や周りの人々や自然、社会について関心を持ち、進んでそれらに関わり、よりよく問題を解決したり生活したりしようとする。
課題を設定する力	抱いた疑問や問題から探究活動の課題や学習テーマを導いたり、自分につけたい力を設けたりする。
課題追究の計画を立案する力	自分の設定した課題について、計画を立て、その達成を目指して見通しを持ち、工夫する。
課題追究を実行する力	教科等で身につけた学び方・知識・技能を駆使しながら、自分の課題の解決に向かって意欲的に探究し続ける。
結果をまとめ発表する力	教科等で身につけたさまざまなまとめ方を駆使して、自分の思いや考えを発表し、効果的に伝える。
周りの人と関わる力	ともに活動や探究をする友達や活動先の人たちを思いやったり、ともに協力し合ったりしながらそのよさを理解し、積極的に関わりあい、お互いを高めあおうとする。
自己評価を行う力	学習の計画、活動、成果を振り返ったり、自分のものの見方・考え方を見つめ直したりして、よりよい学習のあり方やよりよい自分を求めようとする。
自己の生き方を考える力	学んだことと自分の考え方や生活を比べて、あるべき自分やあるべき生活について考える。

イ 自己評価の力を伸ばす工夫

・総合学習前期

(全学年、4月～9月まで、週1時間ずつ、9月第2週に総合学習週間でまとめどり)

1年	コミュニケーション学習（ことバトル）
2年	人権フィールド学習
3年	職場体験学習

生徒一人一人に、その体験に必要な力はどんな力（学習活動に応じた具体化した評価規準）なのか考えさせ、今の自分と体験後の自分が自己評価できるようにさせた。生徒にアドバイスを与えながらチェックリストをつくらせた。それを活用し、自己理解、自己発見、自己実現への努力といった、自己評価を行う力、そして自己の生き方を考える力の育成を図った。その際、教師が生徒にアドバイスを与え、生徒の考える目標が本校の総合学習で身につけたい学力になるように指導した。その結果、生徒自身が自分の成長を確認することができた。

・総合学習後期（全学年、10月～3月まで、週1時間ずつ）

学びの時間

自分のことを知り、学習課題を決め、計画を立て、計画を実行し、成果を確認・発表し学ぶ方を学ぶ時間とした。本校の育てたい学力のうち 学習活動への関心・意欲・態度、課題を設定する力、課題追究の計画を立案する力、課題追究を実行する力、に重点を置いたが、生徒の自己評価で学習への意欲が高まったと答える生徒が多く、とても好評であった。

各教科との関連を明確にした総合学習年間計画とその実践

テーマに基づいて、学習を進めていくなかで、教科のスキルや知識を総合学習の時間で生かしたり、総合学習の時間の成果を教科学習に役立てたりする方策として、各教科の指導目標や内容にあるものをテーマに設定した。また、調査活動、まとめと発表の段階では、さまざまな力が相互に関連しあって、より強固な力（確かな学力）になるように、教科で身につけた、要点をつかむ力、資料を読み取る力、文章を書く力を意図的に使わせ、生きて働く力になるように工夫した。

(2) 教科・選択教科における少人数授業や習熟度別授業の充実

理科・英語・数学の必修教科において、さまざまな形態の少人数授業を行い、丁寧な個別指導を行うことができた。

5教科の選択教科は、すべて習熟度別編成（補充コース、深化コース、発展コース）による少人数授業を行い、個に応じた効率的で、かつ意欲化を図れる指導を行うことができ、生徒に「授業が分かる」と好評であった。

4教科の選択教科は、題材別指導を固定型編成で行い、生徒の興味・関心に対処し、個性を伸ばす指導を行うことができ、生徒に「やりがいがある」と好評であった。

(3) 学習状況調査の結果から

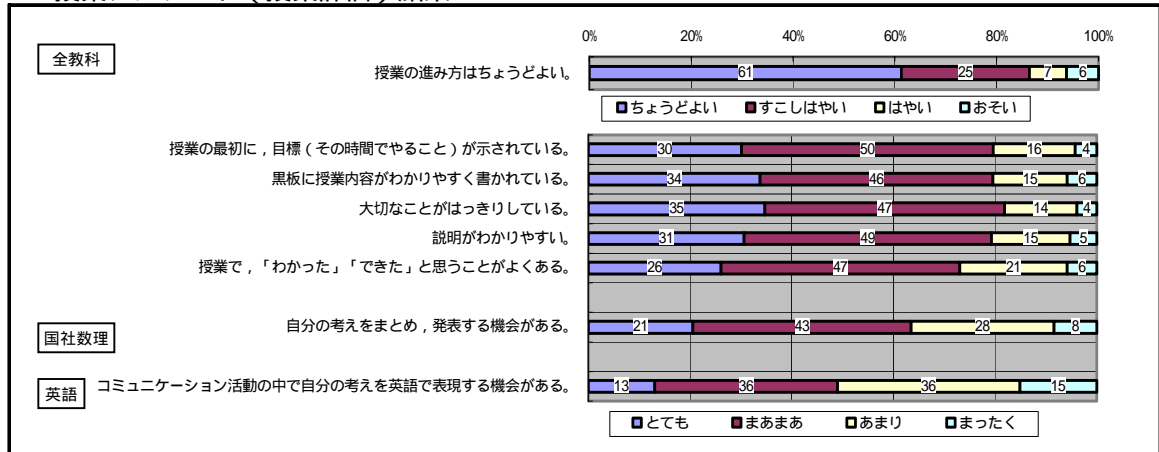
2, 3年生とも昨年度より数学・理科・英語すべてにおいて得点が向上した。

(4) 生徒による授業評価をもとにした授業改善

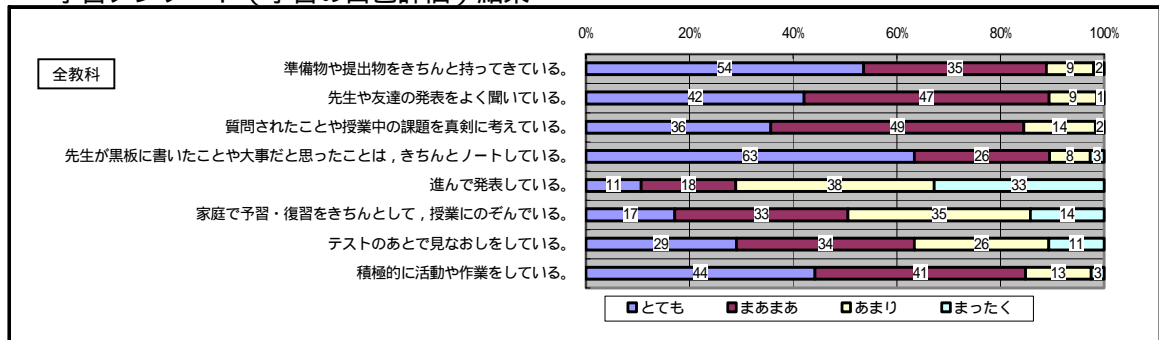
授業アンケート（生徒による授業評価）・学習アンケート（生徒の自己評価）の実施と分析
生徒に、より「確かな学力」をつけるため、学習指導の研究をいっそう深めていくことに取

り組んだ。学習指導の原点は、生徒にとって各教科で「わかる授業」が展開されることである。そこで、2学期の終わりの授業で全教科、生徒による授業評価のための「授業アンケート」を全ての学年、学級で実施し、生徒の全教科の学習への取り組みについても「学習アンケート」を行った。授業アンケートは、10項目程度とし、そのうち6項目は共通項目とし、教科独自の項目を3～4項目とした。学習アンケートは8項目とした。全学年をまとめた結果は次のグラフである。

授業アンケート（授業評価）結果



学習アンケート（学習の自己評価）結果



授業評価のアンケートを分析した結果、どの教科とも、「自分の考えをまとめ、発表する機会がある」とか、「自分なりの考えを深める時間がある」という項目に対して、あてはまるという割合が低い傾向がある。また、表現する活動についての項目も低い傾向がある。生徒の学習アンケートの結果からも「進んで発表している」という項目が低いということが顕著であった。

授業改善のための指導計画の作成

ア 指導内容

本校の授業の課題として「授業アンケート」や「学習アンケート」から見えてきたことは、教師とのコミュニケーションの場を大切にして、生徒の学習意欲を喚起し、「思考力・表現力を高めること」に的を絞って全校で取り組んでいけば、学力の向上につながるのではないかと、ということである。各教科ともこの項目のポイントを上げるために3学期の指導計画を立て取り組んでいる。特に、授業展開のなかでの教師と生徒、生徒同士のコミュニケーションの場の設定の確保のための具体的な手立てが重要であり、教材の精選や開発について検討していくことにした。

イ 指導方法・指導技術の見直し

「授業の最初に目標が示されている」「授業の進み方はちょうどよい」「黒板に授業内容が分かりやすく書かれている」など、授業の指導の基本に関わる部分への教師の意識の高まりも見られた。板書の改善、発問の仕方、机間指導の方法などにも徹底した取り組みの必要性が議論されるようになった。授業においては、必ず明確な課題を掲げることも確認した。

2. 今後の課題

- (1) 授業改善アンケート・学習アンケートの評価を生かし、ポイントを高める指導の推進
3学期の実践についても3月に授業アンケート・学習アンケートを実施し、授業改善の成果を評価することにしている。各教科でのアンケートの詳しい分析、長期的な指導体制・指導計画については、現在、研究中であり、平成16年度はこのアンケート結果をもとに各教科とも授業改善に取り組んでいく予定である。生徒の「学ぶということ」に対する意識をさらに高める必要性もある。授業において、真の意味での学びに対する興味・関心・意欲を高めていき、思考や創造性を広げ、「確かな学力」を育てていきたい。
- (2) 教科・選択教科における少人数授業や習熟度別授業のよりいっそうの充実
- (3) 総合学習における生徒の自己評価力の育成と「学びの評価」を生かした指導の充実

学力把握のための学校としての取り組みについて

- (1) 香川県教育委員会実施による学習状況調査
- (2) 「学習の診断」
- (3) 三木中国語検定（選択教科）など、各教科における習熟度をはかるテスト
- (4) 平成16年5月学力調査実施予定

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

- (1) 本校のホームページに研究のあらましを掲載 (<http://www.kgw-miki-j.ed.jp>)
- (2) 本校の「研究抄録」（平成15年度版）3月初旬作成予定
- (3) 平成16年10月頃 研究実践発表会開催予定

=====
次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。（複数チェック可）

- | | | | | |
|----------------------|------------|----------------------------|-----|-------|
| 【新規校・継続校】 | 15年度からの新規校 | 14年度からの継続校 | | |
| 【学校規模】 | 3学級以下 | 4～6学級 | | |
| | 7～9学級 | 10～12学級 | | |
| | 13～15学級 | 16学級以上 | | |
| 【指導体制】 | 少人数指導 | T・Tによる指導 | その他 | |
| 【研究教科】 | 国語 | 社会 | 数学 | 理科 |
| | 外国語 | 音楽 | 美術 | 技術・家庭 |
| | 保健体育 | その他 | | |
| 【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】 | 有 | <input type="checkbox"/> 無 | | |